

「主の幕屋に宿る者」
詩篇 15 篇(宣教要旨)
説教者 A.Na

本日与えられている詩篇 15 篇から、礼拝を献げる者として私たちが日々どうあるべきかを、共に聴いていきたいと思えます。

《主の幕屋、聖なる山》

他の多くの詩篇と同様に、「主よ」と呼びかけてこの詩篇は始まる。まず、誰が私の祈りを聞き、答えてくださるか私たちが日々確認し続けたい。私たちの願いや思い、そのすべてをすでにご存知であり、そして私たちの祈りを聞いてくださるのは、私たちの主ただお一人。

「幕屋、聖なる山」…イスラエルの礼拝の中心地であり、神の臨在を現す場所を意味する。そこに神がおられ、神の御翼の陰に憩い、完全な守りが与えられるところである(イザヤ 33:20,21)。

《神の御前にどう歩むか…2 節》

誰が主の幕屋に宿るのか…神の前に真っ直ぐに立ち、神の基準に生きる者。偽りがなく心の中の真実を語る者。救われた私たちは、神の御前に新しく生きる者とされた(コロ 3:9,10)。

《周りの人に対して…3 節》

また、主の幕屋に宿る者は…心の中だけでなく、舌を使って中傷しない人。親しいはずの友人に、嫌な思いや被害を与え、また神から遠ざけようとする悪を行わない人。祈るべき、歩み寄るべき隣人への悪口や非難、そのような告げ口を口にしない人。

本来は誰一人として、神の御前に入るにふさわしい者、主の幕屋に宿ることのできる者などいない(詩 14:3)。人間は罪の性質を持っているので、神のみこころにかなう者、偽りがなく口でも行いでも悪に向かわない者はいない。しかし、そのような失望では終わらない。

《神の民としての歩み…4,5 節》

神に救われ、神の民として歩む道を求める

者は、神が喜ばれることを求める。そして、神を見るその目は、不信仰な者、主に捨てられた者を蔑み、主を恐れて歩む者を尊ぶ。そのような者は、自分にとって不利な状況、損になったとしても、誓ったことを変えない、神の御前に正しく、まっすぐに生きる者とされる。また、神が定められたこと(出 22:25, レビ 25:35-37,申 23:20)を守る者とされる。

潔白な人を不利にする賄賂…賄賂により盲目になってしまう(出 23:8,申 16:9)。しかし、神から与えられた基準、神の教えを喜び守る者は、決して揺るがされることなく生きることができる。それは、自分の力ではなく、神から与えられることである(詩 24:3-6)。神を慕い求め、神の御前に正しくあろうとする者に、神が祝福と義を与えてくださる。

《主の幕屋に宿る者に…》

私たちは神によって贖われ、新しく生きる者とされた。日々みことばをいただき、礼拝をお献げする者とされ、その歩みの中、いつも神とともに歩みたい、神の祝福に与るに最高の場所である完全な安心と守りの内にいさせていただきたい、と願わずにはいられない。

私たちは、イエス・キリストの流された血潮により、清められた。たった一度のあの十字架の死と復活により、完全に私たちの罪は赦された。今、私たちの礼拝者としての姿が、神の御前に喜ばれるものでないと思う時、その姿を正直に神に告白したい。

神の御前に礼拝者としてふさわしく歩ませていただこう。今日、その第一歩をともに踏み出してみませんか(ミカ 6:8)。イエス・キリストの十字架と復活により贖われた私たちは、今日も礼拝者として整えられ、主の幕屋に宿る者とならせていただきましょう！

